

活動報告書

報告者氏名: 渡部智大 所属: 仙台市立八乙女中学校 記録日: 2023年2月4日

キーワード: アルファベット学習, 外国語, ローマ字学習, iPad

【対象児の情報】

・学年

中学3年生の男児

・障害名

情緒障害, 肢体不自由, 広汎性発達障害

・障害と困難の内容

右半身に麻痺がある。

言動がゆっくりとなり, 発音が不明瞭になる。

気持ちのコントロールが難しく, かんしゃくを起こす時がある。

苦手なこと, 嫌いなことに極端に抵抗感がある。

【活動目的】

・当初のねらい

肢体不自由, 広汎性発達障害を持つ当該生徒の困り感の解消

iPad による令和の時代に合った学びの促進

・実施期間

iPad を使う学習の前後でテストを実施した。実施日は 2022年 10月 18日、2023年 2月 1日。

・実施者

渡部智大

・実施者と対象児の関係

担任

【活動内容と対象児(群)の変化】

・対象児(群)の事前の状況

アルファベットに関して、大文字は間違いなく書くことができるが、小文字は書き間違えること、分からないことが多かった。

・活動の具体的内容

アルファベットの練習として、iPad 内のアプリを利用した。‘English Practice Simple’ (Let’s enjoy English) というアプリを使用した。このアプリでは、発音と書き順を同時に学ぶことができ、タッチパネルに直接アルファベットを書き込みながら練習ができた。今回は、このアプリを使って1か月間(週2回 計7回)アルファベットの練習を行い、その前後でテストを行うことでアプリの効果を計ることにした。

・対象児(群)の事後の変化

iPad を使用した対象児は、アルファベットの発音の間違いが少なくなり、そして書き間違いが著しく減った。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

対象児はこれまで英語の学習に積極的ではあったが、書く練習に関しては、苦手意識があり、積極的に書く練習をしようとはしなかった。しかし、好きな iPad を使うことで書く練習にも抵抗感少なく取り組むことができたと感じている。

・エビデンス(具体的数値など)

iPad を使う学習前のアルファベットの例



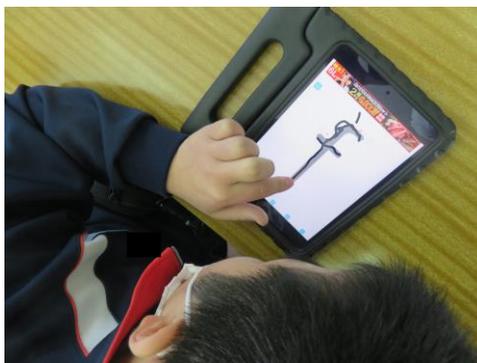
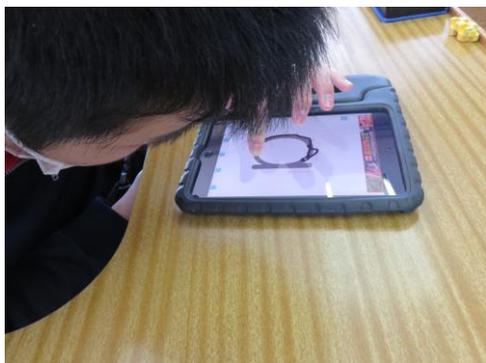
アルファベット26文字中 10文字書くことができなかった。

次に iPad を使った学習後のアルファベットの例



アルファベット26文字中 25文字書くことができるようになった。

・学習の様子

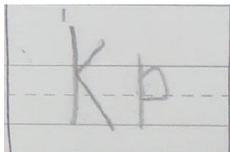


Pic.1, 2 対象生徒が iPad で学習している様子

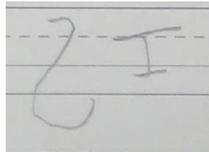
・その他エピソード

アルファベットに続いて、ローマ字の学習も行った。アプリ使用前にテストした際は、

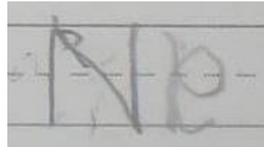
か:



し:



な:

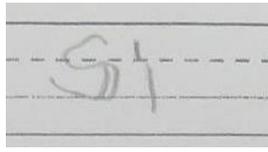


のように書いていたが、アプリでの学習後は、

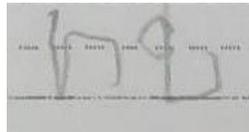
か:



し:



な:



のように書くことができるようになった。今後は、タイピングやフリック入力による英語やローマ字の記入の練習を行っていくことで、障害を持つ生徒にとって大きな助けとなる ICT 器具を使いこなす力を養っていきたいと考えている。